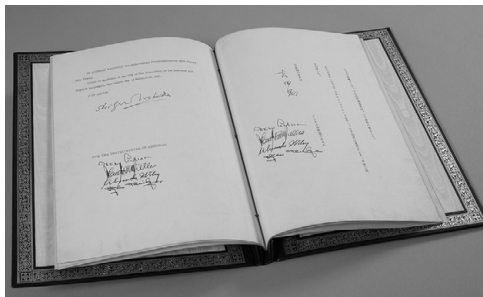


Information

日米安保の原点を振り返る 原本特別展示「旧・日米安全保障条約」

1951年9月8日、「日本国とアメリカ合衆国との安全保障条約（旧・日米安保条約）」が結ばれた。同条約では、日本側は吉田茂総理大臣、アメリカ側はアチソン國務長官、ダレス特使ら（いずれも当時）が署名し、第1条には日本国内に米軍を配備する権利が規定された。また同条約の米国側批准書や吉田首相のサンフランシスコ平和条約受諾演説の原稿の原本も併せて紹介。同条約に基づく日米間の緊密な連携は、1960年の改定後も日米外交・安全保障の基軸となっている。



日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約 署名本書

会期：9月13日（火）まで

会場：外務省外交史料館別館展示室（東京都港区麻布台 1-5-3）

開館時間：10:00～17:30

観覧料：無料

休館日：土・日・祝日



民主化運動のデモ隊 (C) Haven Productions Ltd.

香港民主化デモの最前線から 時代革命

上映期間：8月13日（土）

ユーロスペースほか全国順次公開

監督：キウイ・チョウ

配給：太秦

「一国二制度」「高度な自治」が認められているはずの香港で、政府により自由が制限されている。本作では「逃亡犯条例」の改定に対する2019年の民主化デモを約180日間追った。10・20代の学生、30・40代の「ノビ」「ママ」と若者から呼ばれる世代、70代などの老若男女が、前線隊、記者、救護隊、SNSで情報を収集する隊、送迎隊などとしてそれぞれの役割を果たして共闘する。しかし、警察や香港政府との対立は次第に激化し、催涙弾、火炎瓶が飛び交い、デモ隊に対し実弾での銃撃や殴る蹴るなどの暴行も公然と行われるようになる。デモ隊の人々は何を守り、何を失い、何を目指して声をあげ続けるのか。